

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称 藤沢エコネット)

2008年 7月 1日

第170号



- 主・ どうすればできる? 温暖化ガス削減
な・ 安全・安心ヘルシーな食生活を
記・ 横浜港と輸入食品
事・ 生ごみエコ堆肥の作り方

事務局〒252-0816 藤沢市遠藤849-9 青柳

☎/FAX 0466-87-4922(夜間のみ)

<http://comcom.jca.apc.org/econet/>

洞爺湖サミットの課題 (中期目標設定と排出権取引制度)

地球温暖化防止は世界の願い、人類の課題、急がねばならない!

地球温暖化による影響を、多くの人々が身近なところで感じ始めている。今年の4月から京都議定書、議長国日本は6%削減の国際公約を必ず達成しなければ成らない正念場となっている。日本の政治家と財界一部にこのことを理解できない人々が居ることが悲しい。

気候温暖化は既に始まっている。地球の平均気温は、産業革命以降、0.76℃上昇している。更に、既に大気中に排出された温暖化ガスの影響で、これから20年間に気温がさらに0.4℃上昇すると予想されている。産業革命前に比べて気温上昇を2℃以内に押さえ込むことに全力をそそがなければ、地球環境と人類の生存を脅かす引き返すことが出来なくなるカタストロフィーの到来を避けねばならない。残されるのはあと0.84℃、時間との勝負で急がねばならない。

洞爺湖サミットの注目点としては、50年までに先進国が60~80%削減で合意できるか。科学者達が指摘している緊急性に基づき20年までに先進国が25~40% (90年比) 削減する中期目標に言及できるかなどである。IPCC 報告に言及し、今後10~15年で世界の温室効果ガス排出を増加から減少に転ずるピークアウトすることで合意できるか中期目標の設定はそのカギである。

藤沢市の現状と将来予測

藤沢での温室効果ガス排出量は、家庭、オフィス、運輸部門で増加が目立つ。藤沢市の環境基本計画では、2010年度に6%削減 (90年比) を目標にしているが、2003年度では基準年比6.6%増加となり、この傾向がそのまま続くと2010年までに目標達成は難しい状況である。

研究プロジェクトの立ち上げを呼びかける

効果的な削減目標を作り、実施することが早ければ、早い程コストがかからないとスターン報告は述べている。その為に今、私達市民にできることは、この藤沢市でCO₂の排出がどの様になっているのか実態を正確に明らかにすることである。その為に、研究プロジェクト「地球温暖化 藤沢市への影響 (仮)」を立ち上げようではありませんか。環境省は、温暖化対策に熱心な地方自治体などと連携し「日本カーボンアクション・プラットフォーム」を設立することになった。温室効果ガスの国内排出量取引制度や、個人や企業が排出した二酸化炭素 (CO₂) を他での削減事業で埋め合わせる「カーボンオフセット」など経済的手法を活用した取り組みである。藤沢市も率先してこの事業に参加すること願う。また、企業が温室効果ガスの排出枠を設定し、過不足分を売買させる排出量取引は、東京都が国に先行して一定規模以上の事業所に義務づける制度を10年度からスタートさせる予定である。発足を準備している研究プロジェクトでも検討していきたいと考えている。多くの方々の参加を呼びかけたい。

(宮地 俊作)

どうすればできる？温暖化ガス削減

金牧一郎（NGO I WMCアジア局長）

1997年12月1日より11日まで行われた、京都議定書の成立の事情及びそれに関連したコメントについて以下に略述する。

気候変動枠組み条約の第3回締約国会議で採択され京都議定書は、会期の丸2日間、延長という異常な事態を引き起こしながら、まがりなりにも1997年12月11日午後やっと成立した。

会議のホスト国は日本であり、日本政府はおのれの面子にかけてもと、会議当初から異常なくらいの意気込みを持って会議をホストして行った。

当時の政府首相は橋本龍太郎、会議の議長は環境庁長官の大木浩であった。先進国、途上国を問わずこの会議に関して、それぞれの国が明確なシナリオを持っていたわけではなかったが、世界的な異常気象、温暖化現象の重大性に否応なく直面していたことが、結果的に会期を延長してまでも、議定書採択へと会議参加国を駆り立てたというのが実情であろう。

会議では、先進国、途上国及び産油国の間で考えや意見のくい違いが大きく、その対立は最後まで予断を許さぬ激しさであった。それというのも、この条約の規制がもし実現すれば、締約国のそれぞれに及ぼす社会的、経済的影響の大きさ、深さに計り知れない不安があったからであろう。

幾多の曲折、試行の末、議定書は成立した。

もっとも重大な成果は、先進国の温室効果ガスの数値目標が決定されたという点である。

この数値目標の達成には条約上の法的拘束力が附帯された。すなわち、1990年を基準年として、(概括的にいえば) EU諸国8%、アメリカ7%、そして日本6%CO₂の削減が第1約束期間として2008年から2012年までに実行されることが義務づけられたのである。

こうした削減を少しでも加速、効果あらしめるために、3つの仕組み、メカニズムが導入された。すなわち、

- ①排出権取引 (COP8 Trade System)
- ②共同実施 (Joint Implementation)
- ③クリーン開発メカニズム (Clean Development Mechanism)

である。

さらに森林などのCO₂吸収能力を考慮に入れるネット方式がある。締約国に、この場合は削減数値を課せられた先進国は、これらの削減システムを導入しながらそれぞれの削減目標の達成を法的に義務づけられることになる。これらのシステムが実際に実効があるかどうか、それは各国の努力次第ということになるのだが、きわめて大きな疑問のあるところであろう。

ともあれ、議定書で数値目標を規定できたことは大きな前進といっても良いのだがその後の事態の展開を見れば、全体で5.2%の削減というのは余りにも寡少な数値であって、私たちに破滅的な不安を強いるものと言わざるを得ない。しかも、私たちの日本で言えば約束期間内の6%の削減すら覚束ない、とあつては、何をか言わんやであろう。

藤沢市環境白書より

地球温暖化対策地域推進計画

地球温暖化対策の推進に関する法律の成立・改正により、「温室効果ガスの排出の抑制のための施策を推進するとともに、市民が温室効果ガスの排出の抑制等に関して行う活動の促進を図るため、情報提供等に努めること」が地方公共団体の責務として位置づけられました。

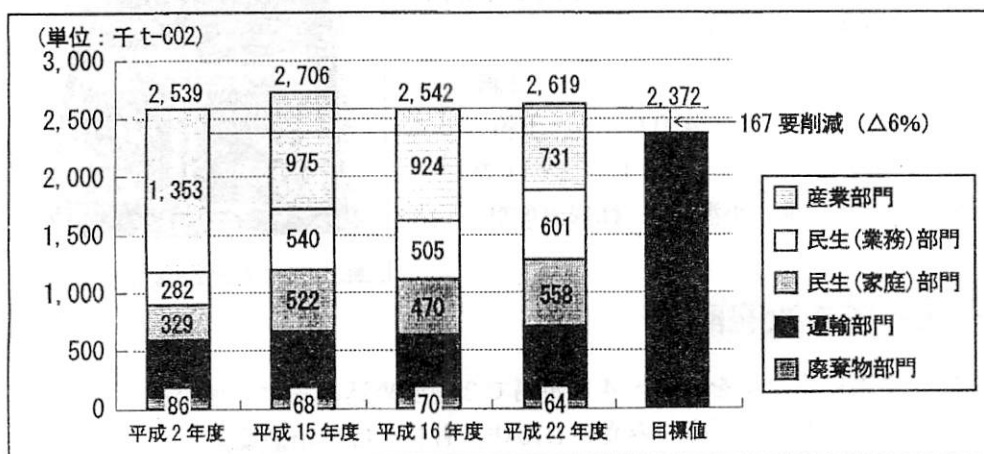
こうしたことから、本市においても平成18年(2006年)3月に「地球温暖化地域推進計画」を策定し「基準年と目標年」、「温室効果ガスの排出の現状と将来予測」、「削減目標」、「削減目標に向けた取組」などを明らかにしています。

(1) 基準年と目標年

・基準年 平成2年度(1990年度) ・目標年 平成22年度(2010年度)

(2) 温室効果ガスの排出の現状と将来予測

平成16年度における本市の温室効果ガスの排出量は2,542千t/CO₂で、基準年に比べ0.1%(3千t/CO₂)の増となっています。また、平成15年度と比べると6.1%(164千t/CO₂)の減となっていますが、削減目標に向け更なる努力が必要であります。



(3) 削減目標

平成22年度(2010年度)における市内から排出される温室効果ガスを平成2年度(1990年度)比で6%削減することを目指します。

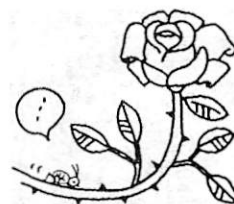
(4) 削減目標に向けた取組

① 藤沢市環境保全率先実行計画の推進

- ・グリーン購入の推進
- ・コピー用紙、電気使用量、燃料使用量等の削減

② 環境基本計画、新エネルギービジョンの推進

- ・公共施設における省エネルギーの推進
- ・公共施設における自然エネルギーの活用
- ・住宅用太陽光発電普及の推進
- ・環境教育、環境学習の推進



発酵土壌「生ごみ食いしん坊」を使って

～1ヶ月で家庭ごみがさらさら堆肥に～

プランター&コンテナを使用した 生ごみ・エコ堆肥の作り方

藤沢エコネット 小林麻須男 44-0375

<はじめに>

今回、私をご報告する家庭用生ゴミ堆肥化システムというのは、発酵効率の高い生ゴミ発酵土壌に「生ごみ食いしん坊」、発行促進剤として本システムの製品「ごみっこ堆肥」「米ぬか」を利用して、野菜用プランター・収穫用コンテナ等に入れて都市部の家庭でも簡単にできるように考案したホームコンポストです。いやな臭い也没有。 「ごみっこ堆肥」はヨーグルトなどと同様に製品が発酵促進剤として繰り返し再利用できます。以下、私の経験を基に、家庭の軒下やベランダを利用して生ゴミ・エコ堆肥の作り方をご説明しますので、皆さんも、ごみ減量、地球温暖化防止の為にホームコンポストにチャレンジしてみませんか。

<用意するもの>

発酵床土～「生ごみ食いしん坊」10L×4袋（1袋680円）

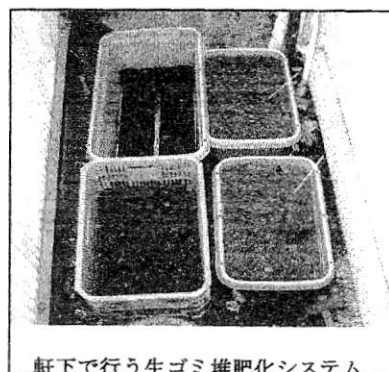
発酵促進材～「ごみっこ堆肥」、「米ぬか」

1次発酵・生ゴミ埋込み用プランター 20L 2箱

発酵床土手入れ用プランター 40L 1箱

2次発酵・解砕用コンテナ 40L 1箱

その他～6mm篩、植木用シャベル、小型鍬、棒形温度計



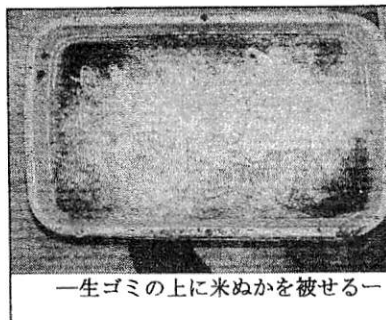
軒下で行う生ゴミ堆肥化システム

<プランターを使って1次発酵>

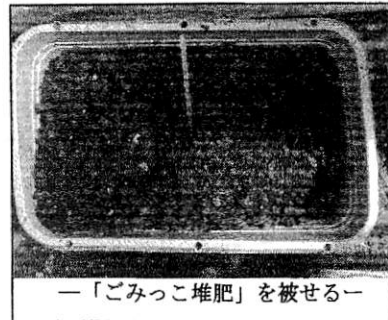
プランターを2箱用意。1箱に生ゴミを3層～4日間隔で3層埋め込みます。埋め込み方は、20Lプランターの底に、床土として「生ごみ食いしん坊」もしくは「市販腐葉土」を5cmほど敷き、その上に生ゴミを入れ、発酵促進剤の「ごみっこ堆肥」、「米ぬか」を良くまぶし、じょうろで水を掛け、さらにその上に「生ごみ食いしん坊」もしくは腐葉土を5cmほど被せます。こうした要領で1箱に3層、サンドイッチ状に生ゴミを埋め込みます。1箱目がいっぱいになったら、同じやり方で2箱目も3層埋め込みます。つまり、2箱のプランターを交互に使って埋込むやり方です。プランターは底に網が敷いてあり、生ゴミが発酵して出てくる水分が底にたまるので便利です。このまま埋めておけば、生ゴミは約3週間で1次発酵を終わります。発酵状況は、棒状温度計で観察します。発酵が進めば温度が上がり、終われば常温に戻ります。



—生ゴミを野菜用プランターに入れる—



—生ゴミの上に米ぬかを被せる—



—「ごみっこ堆肥」を被せる—

<コンテナを使って2次発酵>

3週間経ったら、前の週に埋めたプランターから発酵した生ゴミだけを掘り出し、2次発酵用のコンテナに移します。コンテナの埋め込んでから、約3週間で熟成堆肥となります。この間、コンテナに移した2次発酵堆肥を、良くほぐし空気を入れてやると熟成効果が上がります。2次発酵が進むにつれ、堆肥は次第に乾燥してさらさらになって来ます。収穫用コンテナは、底にも側面にも孔が明けていますので通気性も良く、1次発酵を終えた生ゴミ堆肥を、2次熟成させるのに最適です。

<プランターの床土は、次回埋め込み用に>

1次発酵した生ゴミをコンテナに移すとプランターに土壌が残りますが、これは、発酵床土として一旦別の40Lプランターに移し、よく攪拌し空気を混ぜ養生してやり、次回埋め込み用に使います。土壌が少なくなったら、新しい「生ごみ食いしん坊」もしくは「腐葉土」を追加補充します。

<1ヶ月で、生ゴミさらさら堆肥完成>

プランターで3週間、コンテナで3週間、都合約1ヶ月で生ゴミ熟成堆肥が完成します。出来た熟成堆肥を良く解砕し、6ミリ網で篩うと、写真のような顆粒状のさらさら堆肥ができます。6ミリ以上の粗めの堆肥も良質な堆肥として使用出来ます。（出来がった堆肥は、**ごみっこ堆肥**と命名）

<製品は良質な堆肥、発酵促進剤としても再利用>

完成堆肥「ごみっこ堆肥」の手触りは、とてもサラサラしており、使い勝手が良く、良質な追肥堆肥として花壇に、植木鉢に、ガーデニングに、家庭菜園に散布して頂けば最適です。

出来上がった完成堆肥「ごみっこ堆肥」は、発酵菌が一杯混っていますので、次回の生ごみ埋込みの際の発酵促進剤として再利用します。完成堆肥の保管は、ビニール袋などに入れておけば長期間保存出来ます。小分けして製品化することも出来ます。



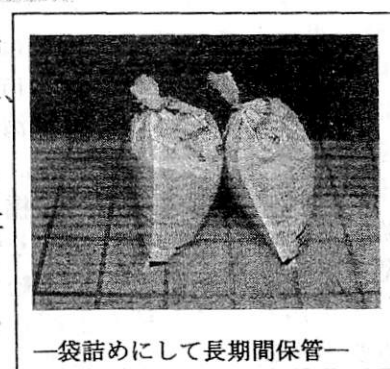
— 1次発酵・堆肥化した生ゴミ —



— 2次熟成用コンテナ —



— 完成した「ごみっこ堆肥」 —



— 袋詰めにして長期間保管 —

* 発酵床土「生ゴミ食いしん坊」製造元 (株)みのり建設

長野県諏訪郡富士見町富士見 11693-7 Tel0266-62-2990

横浜港と輸入食品

5月20日、横浜港の埠頭の輸入食品倉庫、船からの横浜港見学の会に参加した。

野積み

各国からコンテナで運ばれ、山下埠頭の倉庫群には木枠に梱包された食品は大きなテナントハウスに積み上げられていた。ハウスの外に積み上げられ、青いポリ樽(50kg)に詰められたものは「マイタケ」「ミックス山菜」「ナス」「フキ」「タケノコのスライス」「大根」「キュウリ」などの塩漬けだそうで、食品名、製造日、製造元などが中国語で記入されていた。倉庫は保管料がかかるが野積みは安価である。「ワラビ」は中国では食べない習慣があり日本で長野、岐阜など観光地のおみやげにされているのはこの食品。全国各地から買い付けに来て価格は国産の1/10以下である。

港湾労働組合の方から現状を説明のあと、現地を視察した。今、日本の食糧事情は輸入食品を抜きにしては考えられない。日本は先進国では最低の自給率であり、水産物でさえ1位の輸入国となっている。

輸入食品はアメリカからが多く、アメリカの食糧戦略に組み込まれている。遺伝子組み換え食品も問題となっている。

検査は書類審査

港における検疫所検査の仕組みは、書類審査だけでパスする仕組み。量が多すぎ現物の検査ができない状態。最近調査があるとの予告では、見つからないように倉庫の屋上に運んで隠した食品があったとかあわてたそうで、違反品がある証拠である。

添加物

輸入食品の添加物では、モンキーセンターで飼われているサルは奇形が多く1977年には14匹中12匹、1987年では30匹中7匹が奇形で生まれた。これは輸入飼料によるものであった。添加物をとる量は1日一人11g、1年で4kgとなるほど多い。人間ではアトピー性皮膚炎が増え、食生活からのアレルギーが増えている。今、厳格な対策をとらなければ日本民族の将来が危ない。

食料を自給することは持続可能な生産をする権利があるということを訴えていた。

横浜港

横浜市港湾局の課長さんほかの説明では、横浜港は世界と日本をつなぐ海外との貿易の拠点として重要な役割を果たしている。横浜港は「横浜経済の活性化と雇用の創出を図るとともに、市民生活を豊かにし、さらには世界に貢献する総合港湾づくりを進めます」と役割を明記しているとのべた。

市の所有する観光船で大栈橋から湾内を一周、海から眺める港は程良い解説があり快適であった。

大型のコンテナ船がクレーン船で荷揚げしていき、コンテナがたくさん積み上げられていたり、開港当時の防波堤を過ぎたりした。建設中の南本牧埠頭や廃棄物埋立処分場の工事現場などは、鉄板で覆われた、その敷地の広大さに驚いた。船上からの景色は薄く富士山がかすんで見えていた。

(日比 遙)



安心・安全ヘルシーな食生活を

石黒昌孝氏（農民連分析センター所長）を講師に迎えお話しをしていただきました。

講師は野菜の残留農薬や食品添加物の分析をしており、国民に安全な食品を提供するための分析をして、数年前の中国産ホウレンソウの違法農薬使用に警告をなしたり、分析結果に違法がある時は指摘して健康を守るために活躍しています。分析現場の苦労話、食品流通の実態、安全な食べ物はどうしたらよいかなど分かりやすく話して下さいました。



学習会の感想文から

毎日の生活に欠かせない食事

色鮮やかでスーパーではきれいな物ばかりが陳列されています。

農業が環境に優しく地球を冷やす地球温暖化対策につながっている大切さ。

国内食糧の自給率が下落し続け、便利さに頼りすぎてほとんどの物を輸入に頼っている日本。

国内に入ってくる物に農薬を使っていない訳がなく、使われている農薬には死に至るものさえあり、自分や家族の健康を守るためにも、基本的な知識から身に付けていかなければいけないと講演会に参加して改めて考えさせられました。

今の子ども達は野菜などがどのような状態で育っていくのか、育つにはどんな苦労があるのかを知らずにいるため、食のありがたさもなくなっているような気がします。

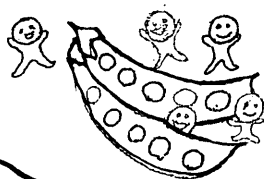
我が家では、子どもと一緒に楽しみながら小さな花壇で家庭菜園をするのも一つの改善策になればと思い、ミニトマトやキュウリ、サニーレタス、サツマイモの収穫を楽しみにしています。

安い食品ほど・・・

中国野菜などの残留農薬や、食品添加物の人体への具体的な害が分かりました。また食卓のほとんどを輸入に頼っている日本の現状がわかり、非常に怖く感じました。

家族のために国産・地元の食品、できるだけ手作りしたものにこだわっていきたい反面、国産品の値段の高さに生活費は厳しいです。

（新日本婦人の会藤沢支部）



みんなの消費生活展

とき 7月25日(金) 10:00~17:00
7月26日(土) 10:00~15:00

ところ 湘南台公民館

内容 講演 情報コーナー 落語 映像 手作り工作 おもちやの病院
鼓笛演奏 藤沢市消防音楽隊演奏 学習発表 お茶席など

主催 藤沢市消費者団体連絡会 ☎0466-50-3573

ごみ有料化裁判(第9回)

多くの方の傍聴をお願いします

とき 7月7日(月) 10時から 場所 横浜地方裁判所

問合せ/藤沢・ごみ有料化裁判を支援する会 ☎44-2652



ポスター募集

あなたの好きな空はどんな空ですか?

青い空の大切さや、大気をきれいにするアイデアや工夫・・・。

あなたの描く美しい空などをじゅうにな発想で表現しポスター図案にしてください!

締切9月16日(火) 環境大臣賞あります!

応募先 東京都港区赤坂3-2-6 赤坂中央ビル6F チューリップテレビ内

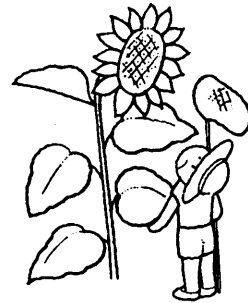
問合せ/主催 環境省03-3505-8211 FAX03-3505-8217

武田薬品研究所建設に関する公聴会

とき 7月5日(土) 10:00-18:00

ところ 村岡公民館ホール 23-0634

主催/問い合わせ 神奈川県 環境部



藤沢エコネット

「地球温暖化防止 藤沢市への影響」第1回会議

7月7日(月) 15:00~17:00 市民活動推進センター

会員募集→会費3000円 振込口座は→郵便局へ→00240-9-46501 藤沢エコネット

次回事務局会議

7月9日(火) 17:30~ 市民活動推進センター

《編集後記》市環境フェアは雨模様に関わらず、割合盛況だった。昨年と比べ、特に食の問題を扱った展示コーナーへの関心が高く、持ち帰り自由の資料がどんどん無くなったという。洞爺湖サミットも迫り、地球温暖化防止と共に食糧危機をどう解決していくかが問われている。

6月は学習会、市環境フェア、武田問題とめまぐるしい日々が続いた。環境問題はますます増える傾向で、これは憂うべきこと。夏の夕涼みをゆっくり楽しみたいものだ。(A)